

(西暦) 2026年 1月 1日

中耳炎に対する検査や治療を行うため当院に入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた臨床研究についてのお知らせ

はじめに

【研究の意義、目的を記載】

中耳炎は耳鼻咽喉科領域において最も頻度の高い疾患の一つであり、急性中耳炎、滲出性中耳炎、慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎など多様な病態を含みます。小児から成人まで幅広い年齢層に発症し、難聴や生活の質（QOL）低下を引き起こすだけでなく、重症例では頭蓋内合併症をきたすことがあります。

急性中耳炎は主に小児に多く、上気道感染に続発して発症することが多いです。日本耳科学会による小児急性中耳炎診療ガイドライン（2018年版）では、重症度分類に基づいた治療方針が示されており、軽症例では抗菌薬を使用せず経過観察を行うことも推奨されています。

抗菌薬の適正使用は耐性菌対策の観点からも重要であり、治療後の抗菌薬使用や再発因子について検討した報告もなされています。これらの知見を踏まえ、急性中耳炎では症状・鼓膜所見・全身状態を総合的に評価した治療選択が求められます。

滲出性中耳炎は中耳腔に滲出液が貯留し、難聴を主症状とする疾患です。小児に多く、言語発達や学習面への影響が問題となります。小児滲出性中耳炎診療ガイドライン2022年版では、診断基準、治療適応、鼓膜換気チューブ留置の適応が明確に示されています。保存的治療を基本としつつ、一定期間改善が得られない症例では外科的治療が検討されます。短期留置型鼓膜換気チューブの有効性については、再発率や聴力改善の観点から検討が行われており、症例に応じた適切な選択が重要です。

慢性中耳炎は鼓膜穿孔や中耳粘膜の慢性炎症を特徴とし、長期にわたる耳漏や伝音難聴を呈します。治療の中心は鼓室形成術であり、目的は感染制御と聴力改善です。

鼓室形成術の術後成績に関する報告では、穿孔閉鎖率や聴力改善率が良好であることが示されています。また、術式別に術後聴力成績を検討した報告もあり、病態に応じた術式選択の重要性が示唆されています。

真珠腫性中耳炎は上皮成分が中耳・乳突腔に進展し、骨破壊を引き起こす進行性疾患です。治療の原則は外科的摘出であり、再発防止と聴力温存が重要な課題です。

長期成績を検討した報告では、術後の再発率や聴力成績が詳細に解析されています。また、弛緩部型と緊張部型真珠腫の病態や進展様式、治療成績の違いについても検討が行われています。

近年では、内視鏡下手術や画像誘導手術の導入が進み、低侵襲かつ安全な手術が可能となっています。これらの技術革新により、今後さらなる治療成績の向上が期待されます。

中耳炎は疾患ごとに病態や治療戦略が大きく異なるが、ガイドラインや臨床研究に基づいた適切な診療が重要です。特に小児例では長期的な聴覚・発達への影響を考慮し、成人例や真珠腫性中耳炎では再発防止とQOL改善を重視した治療が求められます。今後も診断技術や手術手技の進歩により、中耳炎診療のさらなる発展が期待されます。

中耳炎の診療を行うためには、確実な診断と適確な治療方針の決定が不可欠です。当科で検査や治療を行った中耳炎症例の患者データベースを構築し、臨床像および治療成績を統計的に集積分析し、今後の治療へ反映させる必要があります。

対象

西暦 2013年 1月 1日より 2025年 12月 31日までの間に、【耳鼻咽喉科】にて【中耳炎に対して検査

や治療を行う】ため【入院、通院】し、【診療、手術、検査、リハビリテーションなど】を受けた方。

【試料・診療情報等の項目】

試料：ありません。

診療情報等：① 背景情報：現病歴、家族歴、既往歴、生活歴、年齢、性別、身長、体重、臨床所見、家族からの問診情報 ② 初診時および治療後の中耳内視鏡検査・聴力検査・ティンパノメトリー・DPOAE・ABR ③ 治療内容とその効果 ④ 中耳内視鏡・CT・MRI の画像所見 ⑤ 血液検査

【試料/情報の他の研究機関への提供および提供方法】

本研究で使用される診療情報等は他機関への提供は行いません

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、研究責任者までご連絡をお願いします。

研究課題名 中耳炎に関する調査研究

研究内容

カルテから下記の情報を取得します。 ① 背景情報：現病歴、家族歴、既往歴、生活歴、年齢、性別、身長、体重、臨床所見、家族からの問診情報 ② 初診時および中耳炎治療後の血液検査・エコー検査・CT検査・聴力検査・ティンパノメトリー・DPOAE・ABR ③ 治療内容とその効果 ④ 中耳内視鏡検査・CT・MRI・エコー検査の画像所見 ⑤ 血液検査

個人情報の管理について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報は、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものかわからないデータ（匿名化データ）として使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、研究終了時に完全に抹消します。
- 4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切公開いたしません。

研究期間

西暦 病院長承認日 ～ 2028年 3月 31日（予定）

医学上の貢献

本研究により被験者となった患者さんが直接受け取ることができる利益はありません。しかし、本研究により中耳炎の原因と治療効果が明らかになる事により、新たな知見が得られることで科学への貢献が為され、社会への貢献が達成されると考えられます。

研究実施機関

国家公務員共済組合連合会 浜の町病院【耳鼻咽喉科】

【当院での研究責任者】 所属 耳鼻咽喉科 職名 部長 氏名 田浦政彦

【利用する者の範囲】

所属 耳鼻咽喉科 職名 氏名 渡邊真理

所属 耳鼻咽喉科 職名 氏名 的場信広

お問い合わせ先

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

氏名 田浦政彦

所属 耳鼻咽喉科

連絡先 092-721-0831

対応可能時間：平日 9：00 から 17：00 まで

以上